



ふくじゅそう ▶
(きんぽうげ科)

雪がとけるとすぐに開花する。
葉は羽状に細かく裂け、にんじんの葉に似る、花径は3～4cm、黄色の花弁が20～30枚つき、日中開き夜とじる。正月の花として愛好される。

花期 3～4月

草たけ 10～30cm

生育地 半日かげの土手、林の下

- ふきのとうには、雄花(白黄色)、雌花(白色)の区別がある。
- 多年草…冬に地上部が枯れても春に芽をだす植物。キク、ユリなど。
- 羽状…鳥の羽(はね)のような形をしている葉の形。つき方。

福寿草とかき
おめでたい花とさ
れている。



ふき(ふきのとう) ▲
← (きく科)

葉には長柄がある。
春早く、フキノトウを出し、これが生長し、花をつける。アキタフキは葉柄が2mもある大形種。

花期 3～4月

草たけ 30～40cm

生育地 やや湿った
原野、道ばた、土手